

全国学力・学習状況調査の結果と考察

令和3年5月27日に6年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査の調査結果と考察をお知らせします。

学習の結果「平均正答率 (%)」

	国語	算数
青木小	72	75
神奈川県との差	+9	+5
神奈川県	63	70
全国	64.7	70.2

国語 正答率	青木小	県	全国
話すこと・聞くこと	84.3	78.9	77.8
書くこと	69.0	58.3	60.7
読むこと	58.0	48.7	47.2
伝達的な言語文化と国語の特質に関する事項	73.6	63.8	68.3

算数 正答率	青木小	県	全国
数と数量	67.1	62.2	63.1
図形	67.9	57.3	57.9
測定	77.2	74.7	74.8
変化と関係	83.0	76.6	75.9
データの活用	78.5	77.1	76.0

全国の結果と比較して結果に特徴のある問題

国語 A ・全国より大きく上回った問題

- 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する。
- 自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える。
- 文の中における修飾と被修飾との関係を捉える。

・全国より下回った問題

- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。



算数 A ・全国より大きく上回った問題

- 速さを求める除法の式と商の意味を理解している。
- 三角形の面積の求め方について理解している。
- 示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断することができる。

・全国より下回った問題

- 条件に合う時刻を求めることができる。
- 棒グラフから数量を読み取ることができる。



◎学習意識の結果

※数値は「はい」「どちらかといえばはい」の合計（単位は%）

※R2は実施なし

	学習調査	青木小 (R3)	県	全国
①	算数の勉強は好きですか	63.9	67.3	67.8
②	算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	81.5	75.5	73.9
③	国語の勉強は好きですか	68.6	59.7	58.4
④	国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしていますか	50.9	64.6	63.8
⑤	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思いますか	70.4	79.1	81.3

青木小の結果についての考察

【学習調査】

- ①② 「算数の勉強は好きだ」と思っている児童は、県・全国平均を下回っている。しかし、「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」は、県・全国平均を6ポイント以上、上回っている。このことから、日常生活で活用することができることをさらに具体化し、問いでより身近に感じられる導入を入れながら学習を進めていく必要があると考える。
- ③④ 「国語の勉強は好きだ」と思っている児童は、県・全国平均を約10ポイント上回っている。「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしていますか」と思う児童は県・全国平均を下回っている。学習結果の「話すこと・聞くこと」の数値は高いため、自分で「できている」という実感が低いのではないかと考える。また、コロナ禍等で話す機会が減ったことも要因の1つであると考えられる。できる範囲でスピーチを取り入れて、できる機会を増やしていく。
- ⑤ 「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思いますか」では、県・全国平均を大きく下回っている。人権週間や学年の実態に合わせた教材を活用して、深めたり話し合ったりする活動が必要であると考ええる。

※数値は「はい」「どちらかといえばはい」の合計（単位は％）

※R2は実施なし

生活調査		青木小 (R3)	県	全国
①	学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間、インターネットを活用している時間も含む）	60.2	32.4	26.9
②	自分にはよいところがあると思いますか	81.5	76.7	76.9
③	新聞を読んでいますか	28.7	14.5	14.8
④	今住んでいる地域の行事に参加していますか	66.7	53.2	58.1
⑤	地域や社会をよりよくするために何をすべきか考えることがありますか	65.7	54.7	52.6
⑥	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	63.9	70.8	70.1

【生活調査】

- ① 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間勉強をしている（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間、インターネットを活用している時間も含む）児童は、県・全国平均を30ポイント近く上回っている。このことから、すべての観点で県・全国平均を上回った結果につながっていると考えられる。
- ② 自分にはよいところがあると思う児童は、県・全国平均よりも上回っている。生活科・総合、PJ活動等で取り組んできた成果であると考えられる。より自己肯定感を高めていくための授業づくりや、声掛けを意識してさらに高めていく。
- ③ 新聞を読んでいる児童は、県・全国平均を約14ポイント上回っている。新聞にふれる機会が多く、世の中のニュースに興味を持っているということが考えられる。
- ④⑤ 今住んでいる地域の行事に参加している児童は、県・全国平均を上回っている。地域への関心が高い児童が多いといえる。「地域や社会をよりよくするために何をすべきか考えることがありますか」では、県・全国を10ポイント以上上回っている。青木のまちの風総会や青木の時間等で、地域の方々と関わったり、話を聞いたりすることが多いことが理由の一つに考えられる。今後も、継続して地域とのつながりを持ち、社会の一員として自分になにができるのかを考えられるようにしていく。
- ⑥ 「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」では、県・全国平均を7ポイント程度下回っている。自分と違う考えがあることに抵抗を感じる子がいるのではないかと考えられる。1人ひとりの個性を伸ばし、安心して意見を伝えたり、違う考えを認め合ったりできる学級づくりを学校全体で目指していく必要がある。